

「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会(仙台)」の開催概要

「平成 22 年度第 1 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会」を 8 月 31 日（火）に仙台卸商センター産業見本市会館サンフェスタにおいて開催しました。

本交流会は、東北圏では初めての開催となりましたが、出展者数は 63 団体（56 ブース）、来場者は約 400 名となり、多数の方にご来場いただきました。

1 出展者数 56 ブース（63 団体）

（JA 及び生産者 35、植物工場 3、種苗会社 12、流通業者 5、野菜ビジネス協議会 8）

2 来場者数 399 名（出展者を含まない）

- ・メーカー・製造・加工 (94 名)
- ・外食・中食・給食関係等 (31 名)
- ・流通関係業者 (144 名)
- ・その他（生産者、行政、マスコミ等） (130 名)

3 マスコミ

東日本放送、東北放送、日本農業新聞、朝日新聞福島総局

4 ブースの内容

各ブースにおいて、夏秋野菜の供給基地として様々な東北の野菜が展示されました。業務用のロットでの展示や一次加工までを行った商品の PR や、東北独自の雪下で生育された野菜やその加工品など野菜の特色と地域色を打ち出した出展者の姿が見られました。



5 マッチングセミナー

マッチングセミナーは、日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエとしてご活躍中の齋藤緑氏と、MCプロデュース株式会社取締役統轄本部長の木村幸雄氏にご講演いただきました。

どちらのセミナーとも盛況で、熱心にメモをとる来場者の姿が見られました。



講師及びセミナータイトル

- ① 日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエ
みどりなやさい主宰 齋藤 緑氏「地産地消の取組み事例について」
- ② MCプロデュース株式会社取締役統轄本部長 木村幸雄氏
「MCプロデュース（株）における国産野菜需要への対応と産地への提言」

6 アンケート結果

回答数：213 件

うち「役に立った」との回答数 198 件（93%）「興味を持った相手先があった」、「新たな取引ルートができた。または、できそうである」との回答数 84 件（40%）

○ 来場者からの交流会に対する主な意見

役立った内容	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none">・取引したい商品が見つかった。・新品種や他県の農産物に関する情報が得られた。・産地切り替え時期の調達先の情報が得られた。・新たな情報を得るための場となった。・出展者のPRポイントがパネルで提示されており、分かりやすかった。・商品の流通経路に関する情報が得られた。	<ul style="list-style-type: none">・自給率の引上げ、取引ルート拡大のため、継続して開催して欲しい。・出展者はもっと積極的にアピールすることが必要。・物流も含めたトータル的な提案が欲しい。・国産野菜の冷凍品等の加工品の出展が欲しい。・食べ方の提案や試食を増やすべき。